

感動の場

『芋ほり』
1948 年頃 小川原 脩 画

1948（昭和 23）年 9 月 26 日の「北海道ウィークリー」（北海道新聞の日曜版）に、小川原脩が「薯掘りの季節である」と題して寄稿しています。本作と類似のペン画が大きく一面に掲載され、この季節の倶知安の風物詩、じゃがいも畑の収穫が端的に描かれています。

手前に大きく、でこぼことした馬鈴薯が 6 つ。このそれぞれ違った形について、当時 37 歳の小川原は、次のようにつぶりました。「ま新しい土の上に掘り出された薯の一つ一つが、それぞれの表情を浮べてコロコロと飛び出してくる。・・・昨今、馬鈴薯とは特別な親しみを感じずるようになった。ユーモラスな親しみの表情を持っているからである。・・・子供の顔のように晴々したり、年寄りじみたしかめっ面であったり、伏し目がちな表情であるかと思えば、或は漫画みたくにこぶをこしらえているのがあるところに馬鈴薯のもつ庶民的な親しみが感じられる理由があるのかも知れない。・・・」

当時の収穫作業は、農耕馬にひかれた芋掘り機が土を掘り起こし、転がり出た芋を手で拾い上げるというもの。懐かしの竹製の籠「イモかご」も使われていました。ぐっと足を踏ん張り、腰を屈める作業の様子が、線描からもしっかりと伝わってきます。

文：沼田 絵美（小川原脩記念美術館 学芸員）



ふるさと探訪

461 回

愛らしく憎らしい鳥ーヒヨドリー

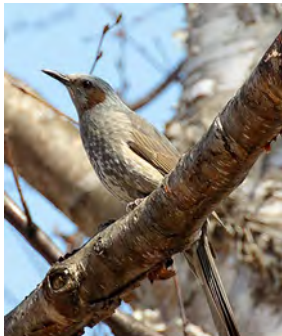
今時期、群れで木の実をつついていて鳥を見かけることはありませんか？おそらくそれは鶇ひよどりです。鳴き声が「ヒーヨ、ヒーヨ」と聞こえることから名付けられたといわれています。甲高く大きな声は名前の由来になるほど主張が強めです。全長約 27 ㍎、尾が長めでスリムな体型をしています。日本全国で普通に見られる鳥ですが、生息分布が日本と日本周辺に限られるため、海外の野鳥愛好家に日本で見たい鳥を聞くと「ヒヨドリ」があげられるほど世界的には珍しい鳥です。

雑食ですが糖分を好むので、サクラやツバキなどの花で吸蜜しているのをしばしば目にします。顔やくちばしの周りを花粉だらけにして食べる姿は大変愛らしいですが、それだけではありません。植物にとっては受粉を助ける送粉者としての役割を果たすほか、小さな木の実を丸ごと食べ、種をフンと一緒に排出するため、種子の散布にも貢献しているのです。しかしミカンやリンゴなどの果実も好んで食べるため、果物農家にとっては害鳥として嫌われています。カラス同様に賢く学習能力が高いヒヨドリは、キャベツやブロッコリーなどを収穫期に群れで狙うため、カラスの次に被害が大きい農業害鳥なのです。

「鶇ひよどりの こぼし去りぬる 実の赤き」（与謝蕪村）

食欲旺盛なヒヨドリが、木の実を食べ散らかして去ってゆくのを眺めるのはほほ笑ましくもあるのですが、農家にとっては対策の難しい厄介な鳥といえるでしょう。

文：森脇 友行（倶知安風土館 学芸補助職員）



▲ヒヨドリ

展覧会のお知らせ

■第 1 展示室

小川原脩展 生誕 110 年記念「チベット紀行」

1979 年からはじまり中国・チベット・インドへと続く小川原脩のアジア歴訪。本展ではチベット訪問を経て描かれた、深い精神性を湛えた小川原脩晩年の作品の数々をご紹介します。柔らかな色彩に包まれるように描かれたチベットの情景をお楽しみください。
会 期：開催中～9 月 26 日(日)

■第 2 展示室

しりべしミュージアムロード共同展 20 回記念「ザ・ベスト展」

今年で 20 回目の「しりべしミュージアムロード共同展」。各館の代表的な作品を、それぞれの館が選んだ過去のテーマに合わせて持ち寄ります。当館は第 1 回目のテーマ「海と山と田園と」。
会 期：開催中～9 月 26 日(日)

アート・イベントのお知らせ

■しりべしミュージアムロード・コンサート

「フルート四重奏による魅惑のサウンド” 色彩と調和”」

日時：9 月 11 日(土) 11 時～ 11 時 40 分 会場：ロビー（無料）

定員：50 名（要予約）※電話受付

出演：HIKAY Quartet（按田佳央理・林ひかる・今井佑佳・山田慶一）

ミュージアムロード各開催館を巡るクラシック・コンサート。今回は、フルート、ヴァイオリン、チェロ、ヴィオラによる四重奏。

■土曜サロン

世界のグレートアーティスト (15)「つづれ織りの粋 古代ローマ英雄物語」

日時：9 月 4 日(土) 14 時～ 15 時 会場：映像ルーム（無料）

お話：柴 勤（館長）

京都逍遙 (3)「禅林の庭を歩く（洛中三）」

日時：9 月 18 日(土) 14 時～ 15 時 20 分 会場：映像ルーム（無料）

お話：柴 勤（館長）

おとなの手しごと (6)「フェルトで織り物」

日時：9 月 25 日(土) 14 時～ 16 時 会場：ロビー（無料）

お相手：沼田 絵美（学芸員） 定員：10 名（要予約）

■金曜ナイトサロン

「美術館でフランス語～ゼロからの旅立ち⑪・⑫」

日時：⑪ 9 月 10 日(金) ⑫ 9 月 24 日(金) 各 18 時～ 19 時

会場：映像ルーム（無料） お話：柴 勤（館長）

定員：5 名程度（要予約）

倶知安風土館イベントのお知らせ

■寺子屋ミュージアム（小中学生向けイベント）

「大鋸おがを使って木挽き体験」

機械がない頃は、木を切るのも手作業で行われていました。大鋸おがを使って木板を切り出してみましょう。

日時：9 月 12 日(日) 13 時 30 分～ 16 時 場所：風土館 定員：10 名（要予約・先着順）

講師：森脇 友行（風土館職員） 参加費：無料

ミュージアム通信

小川原脩記念美術館 ☎ 21-4141

観 覧 料：一 般 500 円（400 円）

高 校 生 300 円（200 円）

小中学生 100 円（ 50 円）

倶知安風土館 ☎ 22-6631

観 覧 料：一 般 200 円（100 円）

高校生以下、美術館観覧者無料

開館時間は 9 時～ 17 時
入館は 16 時 30 分まで
※（ ）内は 10 名以上の団体料金
9 月の休館日 毎週火曜日
美術館のみ 27 日～ 10 月 15 日
（収蔵庫のくん蒸処理作業、
展示替えのため）

わしの眼は十年先が見える！

倉敷市の中心部に位置する「倉敷美観地区」。美しい掘割や柳並木、白壁の蔵屋敷が立ち並ぶ中、一際目を引くのが日本初の西洋美術館として知られる「大原美術館」。

設立者は「クラボウ」「クラレ」などを経営し大原財閥を築いた大原孫三郎。孤児院を支援し、保育園や夜間学校、病院、農業・労働研究所を設立するなど、社会事業にも偉大な足跡を記しています。

美術館が設立された 1930 年は世界恐慌のさなか。周囲の猛反対を押し切り、原動力となったのは孫三郎の文化に対する熱い想い。

「わしの眼は十年先が見える」。その口癖の通り、世界中の人々から愛される日本の代表的な美術館となりました。

館 長 柴 勤しば つとむ